

あいち農産物生産流通レポート

平成29年10月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 水田転作作物の生産動向について (園芸農産課)	1
◎ 地域トピックス	
・ 西三河地域の麦作の状況について (西三河農林水産事務所)	3
◎ 東日本情報	
・ 農福連携による経営強化・産地維持の可能性 (東京事務所)	4
◎ 西日本情報	
・ あいちのフルーツコンテストを開催！ ～愛知県No.1の「ぶどう」「いちじく」を決定～ (園芸農産課)	6
・ 「ふるさと全国県人会まつり」で県産青果物をPR (食育消費流通課)	8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切り花・鉢花の10月の見通し(県内市場)	22

※ 今月、「フラワーページ」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農林水産部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

【農作物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農作物価統計調査」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_

を御覧ください。

水田転作作物の生産動向について

園芸農産課

国の資料によると主食用米の年間需要量は、毎年約8万トンずつの減少傾向にあります。これに対して愛知県内では、主食用米の需給バランスを確保するとともに水田を有効活用するため、様々な作物が作付けされています。今回はそれら水田転作作物のうち、代表的な作物である麦類・大豆と飼料用米の生産動向について説明します。

1 麦類・大豆

麦類及び大豆は、西三河地域、豊田加茂地域及び海部地域を中心にブロックローテーションにより水稲と組み合わせた2年3作型で作付けされています。

(1) 小麦

近年、作付けが増加傾向にあり、29年産では約5,400haと24年産と比較して約310ha増加しています。品種は「農林61号」、「イワイノダイチ」が主力でしたが、24年産から県が育成した「きぬあかり」の本格生産が始まり、29年産では小麦作付面積の8割以上を占める主力品種となっています（図1）。また、県育成のパン・中華めん用新品種「ゆめあかり」の生産も28年産から始まり、29年産では50ha程度作付けされました。今後は「きぬあかり」、「ゆめあかり」の作付けを伸ばし、県内小麦作の全てが県育成品種となる予定です。

一方、県内の小麦収穫量も増加しており、25年産から2万トンを超え、28年産の収穫量は約23,700トンとなっています（図2）。

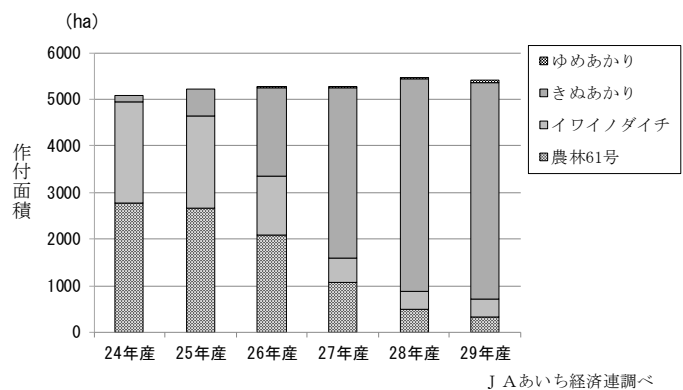


図1 愛知県における小麦品種の推移

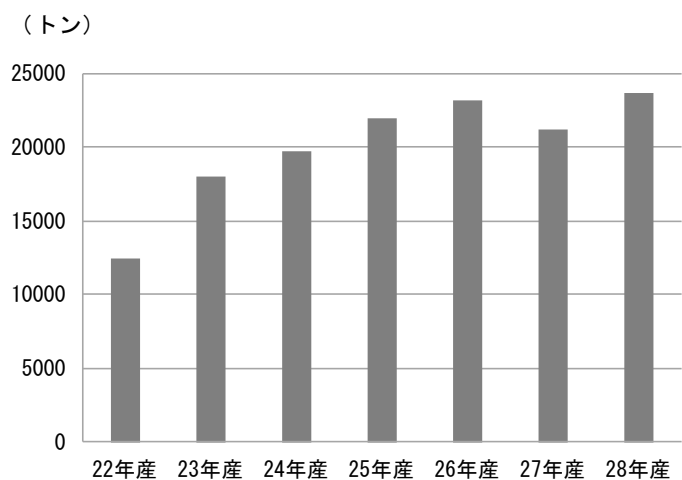


図2 愛知県における小麦の収穫量

(2) 大麦

六条大麦は、麦茶用として実需者からの要望が高く、県の基幹品種だった「カシマムギ」を27年産から「カシマゴール」に切り替えています。29年産では「カシマゴール」と「さやかぜ」の2品種が大口町及び扶桑町で80ha程度作付けされています。

(3) 大豆

大豆の作付面積は26年産まで約4,300ha前後で横ばいの状況でしたが、27年産から面積が拡大傾向にあり、28年産は約4,510haと増加しています。しかし一方で、23年産から28年産の10aあたり収量は104~169kgと少ない上に、年次変動が大きいことが課題となっています。

2 飼料用米

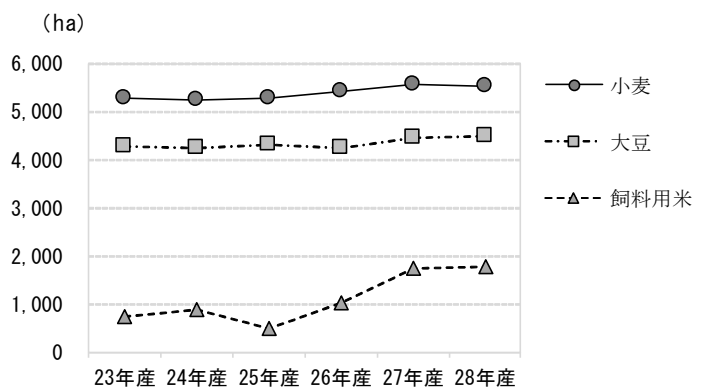
飼料用米とは家畜飼料として生産する米のことです。

飼料用米は、麦類や大豆の作付けに不適な湿田でも作付けでき、新たな機械投資も必要としないことから、尾張地域の平野部を中心に面積を拡大しています。28年産では約1,782haと26年産と比較して約1.7倍の作付面積となりました（図3）。

これは、26年産主食用米の価格が在庫数量の高まりから過去最低水準となり、これを解消するために飼料用米への取組が推進されたことによるものです。

飼料用米の多くは主食用品種を用いて作付けされていますが、多収品種の作付面積も増加してきました。県が育成した「もみゆたか（愛知125号）」は多収品種として飼料用米に適しており、28年に奨励品種となり29年産から種子が供給されています。

なお、麦類、大豆、飼料用米等の生産は、国が実施する経営所得安定対策等による交付金等の対象となっています。これらの交付金等を活用し、需要に応じた米生産を推進してまいります。



出展：作物統計、農林水産省公表資料

図3 主な水田転作作物作付面積の推移

西三河地域の麦作の状況について

西三河農林水産事務所

1 麦作の歴史

西三河地域の麦作は、昭和44年から約50年にわたって実施されてきた米の生産調整政策に対応するとともに、恵まれた自然環境や立地条件を生かし、ほ場インフラ整備の充実やブロックローテーションを活用した農地の利用集積により、栽培規模を拡大してきました。さらに、管内農協の共同乾燥調製貯蔵出荷施設の増強や、生産技術の向上もあり、同地域は県内でも主要な麦産地となっています。

近年の生産状況では、平成24年産から本格導入を始めた愛知県育成の多収性麺用小麦「きぬあかり」の計画的導入により、単位面積当たりの小麦収量が飛躍的に増加しました（図1）。その結果、平成27年産以降は、小麦作付面積の過半数を「きぬあかり」が占めるようになりました（図2）。

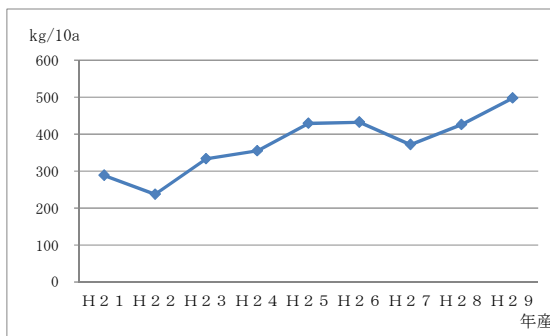


図1 西三河管内の小麦単収の推移

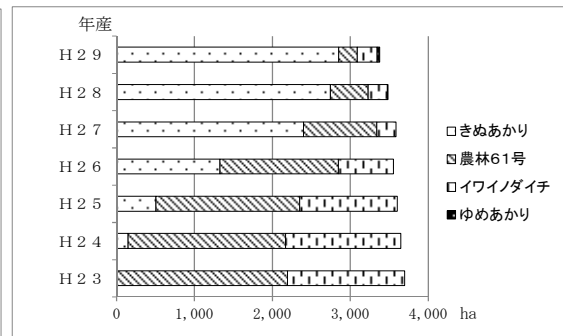


図2 西三河管内の小麦作付面積

2 最近の動き

西三河農業協同組合では、小麦の収量が既存のカントリーエレベーターの処理能力を大幅に上回ることが予想されたため、平成28年度強い農業づくり交付金事業を活用して西部ライスセンターをカントリーエレベーターに改装し、米に加えて麦の乾燥調製貯蔵出荷ができるよう増強しました。西部カントリーエレベーターは平成29年3月30日に竣工し、同年の初夏から麦の荷受けを開始しています。

平成29年産の西三河農協の小麦作付面積は1,280ha(前年比99%)ですが、取扱数量は6,792t(前年比109%)と増加しました。



西部カントリーエレベーター

農福連携による経営強化・産地維持の可能性

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

7月13日、千代田プラットフォームスクエアにおいて、農林水産省農林水産政策研究所の吉田行郷企画広報室長により農福連携についての講演が行われました。

講演会では、企業における農業を通じた障害者雇用の実情等が報告され、障害者と農業の親和性の高さや地域農業の労力不足を解消する一手としての障害者の可能性が話し合われました。今回は吉田氏の講演内容を中心に、農福連携に関する法人の動きや、労力としての障害者雇用について紹介します。



農林水産政策研究所
吉田行郷氏

1 農福連携に係る法人の動き

民間企業は障害者雇用促進法^{注1}により、障害を理由とした雇用条件の差別禁止や、規模(従業員数)に応じた一定割合の障害者の雇用(法定雇用率^{注2})が求められています。一方、平成28年度障害者白書によると、障害者総数860万人のうち、就労者数は74万人と全体の8.6%となっています。

そのような中、就労支援事業所等の福祉事業所や、企業が設立する特例子会社^{注3}が、雇用した障害者の能力を活かす職種として「農業・農作業」に注目しています。反復作業への順応や手先の器用さ、真面目さ、植物に対する感度など、農作業と障がい者の方との相性が見直され、大阪府泉南市(ハートランド(株))や北海道芽室町(株)九神ファームめむろ)、静岡県浜松市(株)ひなり)、香川県全域(NPO法人香川県社会就労支援センター)など、農業生産の現場に障害者を活用することで実績を挙げる事例が出始めています。

【障害者の就労状況】

①企業就労	45万人	} 就労数 74万人 (全体の8.6%)
②就労移行支援、就労継続支援事業所で働く	29万人	
③上記①、②を除く生産年齢者の総数	280万人	
④その他(生産年齢外、入所施設、入院等)	506万人	
障害者総数(平成28年度白書)	860万人	※発達障害者は除く

2 地域の労力不足を解消する障害者

農業分野では、慢性的な労力不足が課題となっています。これに対し、吉田氏は障害者雇用(労力)の魅力として、「福祉事業所(就労支援事業所等)との連携が可能」「長期雇用が可能」など安定した労働力のメリットを挙げられています。また、平成30年4月、平成33年4月と、段階的な法制度の改正により、企業に対する障害者の法定雇用率の目標が上がり、企業は今以上に障害者の雇用を進めます。今後は他業種との間に障害者労力の取り合いが起こる懸念さえ出てきます。

しかし一方で、農福連携を検討する際、障害者を単なる都合の良い労働力として捉えてしまうと、経営面や作業面などで問題を生じやすいという説明もありました。障害者に対して一定の理解の上で連携・取り込んでいくことが必要で、実際の現場では丁寧な説明や5～6人によるチーム制などで問題をクリアしているとのことでした。

【障害者雇用の魅力】

- ①連携の受け皿となる福祉事業所・組織等がある（なければ作ればいい）
- ②長期雇用が可能（年齢が多様で若者も多い、海外研修生のような期限がない）
- ③公的支援がある（管理者賃金の補助、その他の人的サポート等） など。

3 農業者側のメリットとしての障害者雇用

最近、話題となっている「農福連携」ですが、農業者側のイメージとしては「人助け・社会貢献」ととられがちの部分もあると思います。しかし、「農業分野での慢性的な労力不足を解消する可能性・体制の模索」という視点で見た場合、障害者の活用・連携は農業者側に大きなメリットを生む可能性もあります。個々の経営の労働力確保や作業委託体制の確立など、農業経営強化・産地規模維持という面で有益な手段にもなります。

善意や義務感だけで見えてしまっただけでは農業者側のメリットがぼやけてしまい、「農福連携」を始めるハードルを上げてしまいます。魅力のある働き手として障害者の方に目を向け、理解を進めることが必要ではないでしょうか。

注1 障害者雇用促進法：身体および知的障害者の雇用を促進し、その職業と生活の安定を図ることを目的とする法律

注2 法定雇用率：一定規模以上の企業、公共団体に、従業員数に対し一定割合の身体及び知的障害者を雇用することを上記法律により義務づけるもの。割合。（現在2.0%、未達に対し納付金が求められる他、改善が認められない場合は企業名の公表もある）

注3 特例子会社：法定雇用率達成が困難な親会社(職種等)に対し、障害者雇用に特別な配慮をした子会社を設立し、その従業員数(障害者の割合)を、親会社の法定雇用率算出に組み込める特例を有する会社

あいちのフルーツコンテストを開催！ ～愛知県No.1の「ぶどう」「いちじく」を決定～

園芸農産課

愛知県は、JAあいち経済連及び愛知県果樹振興会と共催で、本県の主要果実である「ぶどう」と「いちじく」の栽培技術の向上を目的として「あいちのフルーツコンテスト」を毎年開催しており、本年も以下のとおり実施しました。

また、コンテストに併せて、県産果実の消費拡大を図るとともに、果実に込める生産者の思いを消費者に直接伝えることを目的に「あいちのフルーツフェア」も開催しました。

表 平成29年度「あいちのフルーツコンテスト・フェア」開催実績

品目	内容	月日(曜日)	会場
ぶどう	コンテスト	8月17日(木)	久屋大通公園フラリエ
	フェア		
いちじく	コンテスト	8月29日(火)	西尾市横須賀ふれあいセンター
	フェア		イオンモール熱田

1 あいちのぶどうコンテスト

「あいちのぶどうコンテスト」には、本県主力品種の「巨峰」を始め、生産者自慢のぶどう104点が出品されました。

審査は、県農業総合試験場、JAあいち経済連等の農業技術者6名で行われ、果実の外観、糖度、食味を総合的に判断し、特選12点、入選19点を選出しました。最高賞の農林水産大臣賞には、岡崎市で生産された「シャインマスカット」が選ばれました。



コンテスト審査の様子

コンテストには、「巨峰」や「シャインマスカット」のほか、「クイーンニーナ」、「ロザリオビアンコ」など20品種も出品され、多様化する消費者のニーズに応えるため、様々な品種を導入する生産者の姿勢が反映されたものとなりました。

2 あいちのぶどうフェア

「あいちのぶどうフェア」では、ぶどうの人気投票と即売会、フラリエ内のカフェとのコラボによる「ぶどうスイーツ」の販売が行われました。

人気投票は、コンテストに出品されたぶどうのうち4種類を、フェアの会場である久屋大通公園フラリエのイベントに参加された親子49名が食べ比べ、最も気に入ったものに投票してもらいました。人気



ぶどう即売会の様子

No. 1 となったのは、「種有り巨峰」で、僅差で「クインシーナ」が2位となりました。

即売会は、販売開始時間の30分以上前から消費者が並ぶ盛況ぶりです。販売が始まると、色とりどりのぶどうから気に入った品を買い求めていました。

カフェでのぶどうスイーツ販売も好評で、販売開始から1時間足らずで完売となりました。

愛知県のぶどうの魅力を消費者に伝える良い機会となりました。



農林水産大臣賞を受賞した
岡崎市産「シャインマスカット」

3 あいちのいちじくコンテスト

「あいちのいちじくコンテスト」には、本県主力品種の「柵井ドーフィン」190点、「サマーレッド」62点が出品されました。

審査は、県農業総合試験場、JAあいち経済連及び青果物市場等の関係者9名で行われ、果実の外観、糖度、食味を総合的に判断し、特選19点、入選56点を選出しました。最高賞の農林水産大臣賞には、東海市で生産された「サマーレッド」が選ばれました。

本年は、梅雨明け後の日照不足等の影響が懸念されましたが、着色、果実肥大が良好で高品質の出品物が揃っていました。

4 あいちのいちじくフェア

「あいちのいちじくフェア」では、コンテストに出品されたいちじくの試食販売を行いました。いちじくのマスコットキャラクター「イチゾー」も登場し、県内各産地の生産者が店内のお客さんに和気あいあいと愛知県産いちじくの魅力をPRしていました。

2時間で、400パック余りのいちじくがほぼ完売となり、いちじくの人気の高さがうかがわれました。また、若い親子連れが試食をし、お子さんが美味しそうに食べるのを見て、買い求めてゆく姿も多く見られました。



いちじく試食販売の様子

5 今後の展開方向

「あいちのフルーツフェア」は、これまで別々に開催してきた果実品評会や関係団体の取組をひとつにまとめ、相互に連携することで、効果的に県産果実の消費拡大を図ることを目指しています。本年度は10月に「かき」、3月に「かんきつ類」での開催も予定しています。愛知の果物が消費者にとって、より身近で魅力的なものとなるように、これからも取り組んでまいります。

「ふるさと全国県人会まつり」で県産青果物をPR

食育消費流通課

愛知県農産物需要拡大推進協議会（構成：愛知県、JAあいち経済連）が9月9日（土）、10日（日）に久屋大通公園久屋広場、エンゼル広場で開催された「ふるさと全国県人会まつり」に出展し、本県産農産物の販売・PRを行いましたので、紹介します。

1 「ふるさと全国県人会まつり」の概要

「ふるさと全国県人会まつり」は、東海地区にある道県人会を中心に、郷土芸能、特産品販売、観光PRを通じてふるさとの魅力をPRするイベントで、今回で17回目を迎えました。今年は21.3万人の方が来場し、会場は熱気に包まれました。愛知県は3ブースを構え、そのうち農林水産部からは名古屋コーチンの焼き鳥・つくね・フランクフルトの販売（畜産課）と本県産青果物の販売（食育消費流通課）の2ブースを出し、愛知県の代表としてPRを行いました。

2 県産青果物の販売

食育消費流通課のブースでは、愛知県農産物需要拡大推進協議会として、本県を代表する農産物であるトマト、いちじく、なしを販売するとともに、ブースを訪れた方にはレシピやリーフレットを渡すなどして、本県産農産物をPRしました。

来場者の中には、「去年もここでいちじくを買いとても美味しかったので今年も買いに来た」、「いちじくの生産が日本一ということを知らなかった」という声を聞くことができました。毎年、本県のブースを楽しみに来られる方が年々増えているように感じました。

また、本年度は、9月12日から販売された「カゴメ野菜生活100 愛知いちじくミックス」の無料配布を行いました。愛知いちじくミックスの原料になっている本県産いちじくを購入する方も多く、良いPRになりました。



本県ブースの様子①



本県ブースの様子②

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
28年実績	780	387 (50%)	229	267	三重 (50%) — —
29年見通し	720	360	210	240	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知及び三重からほぼ全量を入荷する。生育状況は前年に比べやや遅れているが、おおむね順調。梅雨前までの少雨や8月の日照不足の影響で小玉傾向がみられる。9月の台風については、産地から大きな被害は聞かれていない。 入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>			<p>品質については特段の要望はないが、年々市場への入荷量が減少している。消費者への安定的な供給のため、産地からの出荷数量の維持をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
28年実績	2,125	1,511 (71%)	269	259	静岡 (28%) — —
29年見通し	2,100	—	260	—	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知中心に静岡などから入荷する。愛知は生育は順調。10月下旬から11月上旬にかけてピークを迎え、11月末までの入荷を見込む。階級はL中心の入荷となる見通し。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>			<p>「りんご」「みかん」「なし」など競合する果実が豊富な時期にあたる。果実全体に販売環境が厳しい中で、いかに安定した品質の「かき」を消費者に提供できるかが重要となる。このため選果選別を徹底し、予約販売に向け産地の出荷動向などの確な情報が求められる。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し

名古屋中央卸売市場

※グラフは白抜き箇所が見通しとなります。

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	24年	38,044	176	175	168	北海道	43%	
	25年	36,432	202	193	206	長野	19%	
	26年	39,598	179	176	163	茨城	7%	
	27年	38,706	216	216	192	群馬	7%	
	28年	33,600	284	291	274			
	5ヵ年平均	37,276	211	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	29年見通し	36,400	186	—	—			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>北海道、長野などから入荷する。前年は台風や9、10月の天候不順により極端な高値となった。本年は8月の日照不足等の影響を受けた品目もあるものの、全体的に順調な入荷となる見通し。</p> <p>入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>								
だいこん	24年	2,631	80	95	73	79	青森	48%
	25年	2,275	114	121	95	124	北海道	31%
	26年	2,542	77	90	84	64	新潟	9%
	27年	2,469	95	106	106	80	愛知	4%
	28年	1,784	168	156	172	181		
	5ヵ年平均	2,340	103	110	103	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	29年見通し	2,000	110	100	110	120		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>青森、北海道を中心に入荷する。青森は夏場から秋にかけての長雨の影響で、入荷量が例年に比べて若干少ない見込み。北海道は中旬が入荷の目処となる。</p> <p>入荷量は前年をかなり上回るが平年より少なく、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>								
にんじん	24年	2,972	92	115	103	72	北海道	94%
	25年	2,647	127	136	125	123	青森	4%
	26年	2,634	98	111	106	86	中国	1%
	27年	2,735	119	126	122	115		
	28年	2,027	266	304	292	228		
	5ヵ年平均	2,603	133	144	144	121	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	29年見通し	2,500	90	90	90	90		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>北海道が入荷の中心となる。昨年は台風等の影響で北海道からの入荷が落ち込んだが、今年は潤沢な入荷が見込まれる。また価格は安値推移しているが、この傾向は10月も続くと思われる。</p> <p>入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>								

東京都中央卸売市場

9月30日現在

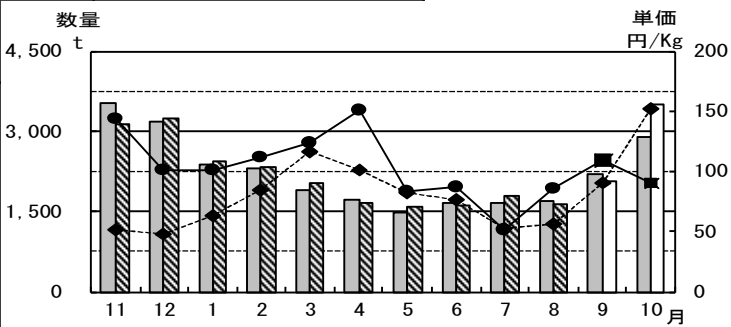
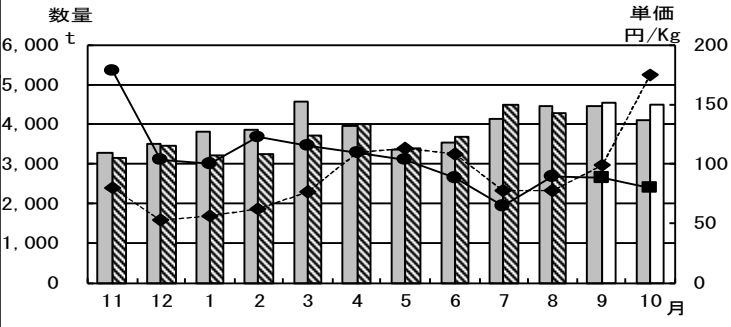
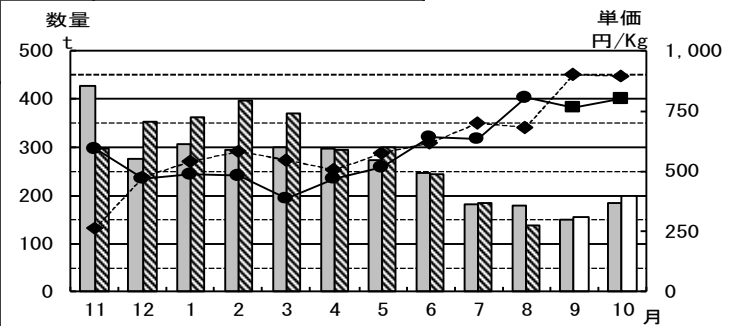
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	24年	145,020	196	198	196	北海道	28%
	25年	141,453	220	225	226	茨城	13%
	26年	146,886	192	206	182	長野	12%
	27年	142,190	237	258	214	群馬	12%
	28年	129,927	316	309	321	千葉	7%
	5ヵ年平均	141,095	230	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	29年見通し	141,000	240	—	—		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
8月の曇雨天の影響を懸念する声もあるが、今のところ多くの品目で順調な生育との判断が大勢を占める。根菜類、葉茎菜類は順調な入荷が見込まれるが、果菜類は天候不順の影響が懸念される。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は記録的な高値の前年を大幅に下回る見込み。							
だいこん	24年	13,411	73	83	70	北海道	37%
	25年	13,910	105	112	112	青森	34%
	26年	14,289	72	89	58	千葉	18%
	27年	14,255	86	104	68	茨城	5%
	28年	12,467	149	144	150	岩手	3%
	5ヵ年平均	13,666	96	106	92	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	29年見通し	14,900	80	90	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、青森、千葉からの入荷が中心となる。遅れていた北海道、東北産に加えてこれから始まる関東産も平年並からやや増が見込まれており、量はまとまる見込み。 入荷量は少なかった前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
にんじん	24年	8,767	101	118	88	北海道	88%
	25年	8,738	126	131	126	中国	7%
	26年	9,276	90	101	80	青森	5%
	27年	9,125	116	120	111		
	28年	7,838	261	260	260		
	5ヵ年平均	8,749	135	143	135	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	29年見通し	10,000	80	80	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道からの入荷が中心となる。台風や病害の懸念なく生育は順調で、平年以上の出荷を見込む産地が多い。先月から潤沢な入荷で推移しており、前年と対照的に相場は厳しいものになると見込まれる。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年、平年を共に大幅に下回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)			
				上旬	中旬	下旬	
ほうき	24年	3,862	51	49	46	66	長野 91%
	25年	4,042	67	76	51	81	茨城 7%
	26年	4,107	55	80	56	46	北海道 2%
	27年	3,787	85	92	113	69	
	28年	2,899	152	122	148	176	
	5ヵ年平均	3,739	78	79	78	82	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	3,500	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野が主産地となり、潤沢な入荷が予想される。長野の終了時期は11月下旬だが、気温が下がり前倒しの可能性もある。11月以降の主要産地となる茨城も生育順調で、10月後半から入荷が始まる見通し。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					 <p>数量 (t) と単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は11月以降増加傾向、単価は全体的に低下傾向。</p>
キヤベツ	24年	5,097	48	49	47	52	群馬 43%
	25年	4,751	95	84	91	111	茨城 28%
	26年	4,987	82	112	89	59	長野 15%
	27年	4,364	135	152	138	120	愛知 5%
	28年	4,101	174	121	183	219	
	5ヵ年平均	4,660	103	101	107	107	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	4,500	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前半は群馬、長野が入荷の中心となる。群馬及び長野は中旬まで入荷物が多く残る見通し。後続の茨城や愛知も生育順調で、中旬から入荷量が増えると思われる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					 <p>数量 (t) と単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は中旬以降増加傾向、単価は全体的に低下傾向。</p>
ほうれんそう	24年	282	648	766	611	588	岐阜 57%
	25年	263	630	700	555	656	愛知 22%
	26年	288	558	563	562	556	茨城 14%
	27年	291	587	738	650	455	長野 4%
	28年	186	894	1,093	1,002	764	
	5ヵ年平均	262	646	720	651	594	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	200	800	800	800	800	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜の飛騨地域を中心に、愛知、茨城などから入荷する。岐阜は低温と干ばつの影響で例年より少ない入荷量で推移。愛知は中旬頃から入荷が増える見通し。 入荷量は前年をかなり上回るが平年より少なく、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					 <p>数量 (t) と単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は中旬以降増加傾向、単価は全体的に低下傾向。</p>

東京都中央卸売市場

9月30日現在

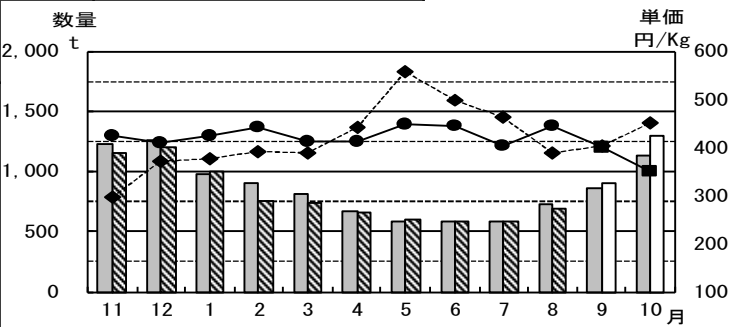
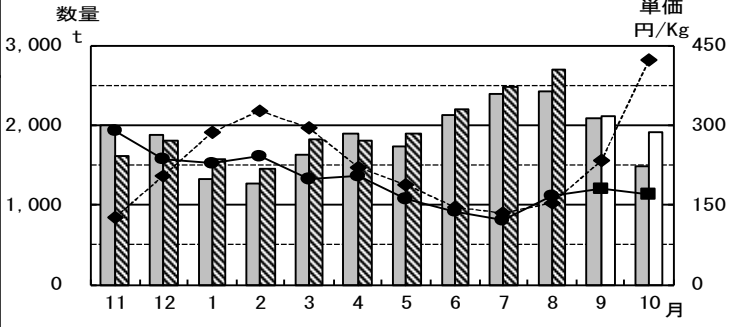
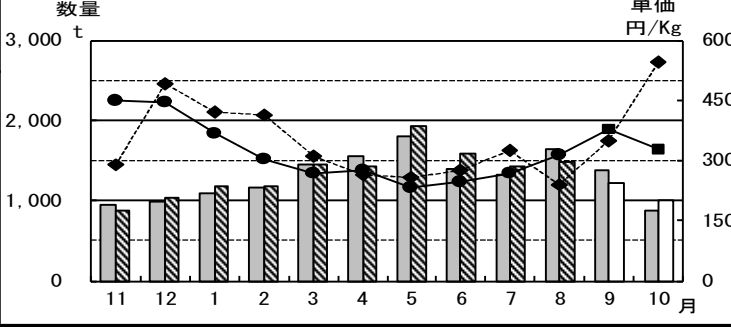
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	24年	14,201	50	46	55	長野	70%	
	25年	15,123	68	49	72	茨城	15%	
	26年	14,875	54	52	38	群馬	7%	
	27年	14,551	85	108	64	北海道	6%	
	28年	14,716	143	119	158			
	5カ年平均	14,693	80	84	77	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	29年見通し	15,100	80	85	80	75		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に、茨城、北海道からの入荷となる。長野は気温低く生育が緩慢となったが病害虫も少なく、10月中旬には出荷量が増える見込み。茨城は作付増と順調な生育から前年以上の出荷が見込まれている。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>						
キヤベツ	24年	16,505	42	45	37	45	群馬	60%
	25年	15,649	90	84	83	103	茨城	13%
	26年	17,085	82	114	86	54	千葉	9%
	27年	16,805	137	162	141	108	岩手	8%
	28年	16,686	166	114	174	205	長野	4%
	5カ年平均	16,546	104	104	105	103	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	29年見通し	18,300	85	85	85	85		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心に、千葉、岩手、茨城からの入荷となる。各産地とも生育が順調な上、作付面積を増やす産地もあり、入荷量は平年以上になると見込まれる。群馬は10月いっぱいではほぼ終了する。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年、平年を大幅に下回る見込み。</p>						
ほうれんそう	24年	1,433	589	711	608	492	群馬	33%
	25年	1,360	567	579	504	610	茨城	18%
	26年	1,668	478	473	481	480	栃木	15%
	27年	1,678	490	648	519	381	岩手	9%
	28年	994	851	1,172	896	672	岐阜	5%
	5カ年平均	1,427	572	680	578	511	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	29年見通し	1,600	510	570	510	450		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城、岐阜等からの入荷となる。前年の高値を受け作付面積は増加傾向。一部で8月の日照不足による軟弱傾向もみられるが、各産地とも概ね生育は順調。10月後半から増加すると見込まれる。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に、平年をかなり下回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	24年	1,272	337	379	319	332	北海道 40%
	25年	1,160	336	334	321	358	長野 16%
	26年	1,372	287	294	286	286	秋田 8%
	27年	1,315	352	408	372	306	富山 8%
	28年	1,135	450	472	436	458	
	5ヵ年平均	1,251	350	371	347	344	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,300	350	350	350	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、長野、富山、秋田などから入荷する。北海道、長野、富山は生育順調だったが、直近では天候不順の影響を受け入荷減との見通しもある。愛知の越津ねぎは下旬から早出しの入荷が始まる見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
しそ	24年	1,806	143	128	164	157	茨城 69%
	25年	1,803	181	175	175	207	長野 21%
	26年	2,409	114	125	110	122	兵庫 5%
	27年	1,791	252	350	252	184	長崎 1%
	28年	1,480	421	593	431	318	
	5ヵ年平均	1,858	208	228	215	194	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,900	170	170	170	170	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、長野が入荷の中心となる。長野は上旬が入荷の目処で、その後は茨城が主力となる。長野の入荷は順調で、茨城の生育状況も順調。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
きゅうり	24年	1,179	295	278	285	332	群馬 30%
	25年	1,005	355	304	265	522	山梨 16%
	26年	983	296	242	294	370	長野 15%
	27年	1,219	293	302	310	273	北海道 14%
	28年	880	545	441	703	494	
	5ヵ年平均	1,053	348	306	362	387	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,000	330	330	330	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、山梨、長野、北海道などから入荷する。夏秋産地からの入荷が減少し、群馬や山梨などの抑制産地が中心となる。群馬及び山梨の生育状況は順調。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	24年	6,169	327	381	311	295	青森 24%
	25年	6,389	296	292	278	314	秋田 18%
	26年	6,244	244	265	248	223	北海道 17%
	27年	6,248	324	385	344	256	茨城 8%
	28年	5,873	428	485	424	394	山形 7%
	5ヵ年平均	6,185	322	360	320	295	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	5,900	340	370	350	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森、秋田、北海道からの入荷が中心となる。台風被害もほとんどなく、各産地とも出荷量は前年並からやや増を計画。稲刈り等、複合作物の作業との兼ね合いから出荷はLサイズ中心で後半に増える。入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
し	24年	9,743	122	102	134	126	茨城 60%
	25年	8,740	169	162	161	183	長野 25%
	26年	10,287	108	115	99	111	栃木 5%
	27年	7,865	256	334	251	192	群馬 2%
	28年	6,556	398	512	409	301	長崎 2%
	5ヵ年平均	8,638	194	222	194	173	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	8,500	140	140	140	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、長野からの入荷が中心となる。生育順調で平年作となる見通し。長野が終了する前半までは潤沢な入荷。後半は関東各産地がピークを迎える。一部では肥大が良すぎ大玉発生の懸念がある。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値となった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
きゅうり	24年	6,213	273	238	281	312	埼玉 29%
	25年	5,810	330	276	260	480	群馬 27%
	26年	5,956	272	206	287	336	福島 11%
	27年	6,601	264	269	276	250	茨城 11%
	28年	5,312	497	407	612	457	栃木 4%
	5ヵ年平均	5,978	322	276	336	362	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	5,600	300	310	310	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>埼玉、群馬など関東産地中心の入荷となる。昨年、天候不順で出荷量を減らした関東各産地が平年並に回復。東北産地では8月の天候不順で出荷量が減少する。全体では前年を上回るも平年を下回る見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に、平年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	24年	723	260	258	250	285	愛知 39%
	25年	595	304	297	264	390	熊本 24%
	26年	691	246	192	237	334	山梨 19%
	27年	645	359	356	395	344	徳島 11%
	28年	678	370	379	342	393	
	5ヵ年平均	666	307	289	295	349	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	670	350	350	350		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知、熊本、山梨などから入荷する。露地栽培とハウス栽培の入荷が重なり、潤沢な入荷が見込まれる。また、愛知及び熊本のハウス栽培の作付状況は前年並で、入荷も前年と同程度となる見通し。 入荷量は前年並で、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。							
ト マ ト	24年	959	537	473	571	607	岐阜 43%
	25年	1,086	453	601	377	420	愛知 18%
	26年	1,283	374	424	348	351	熊本 15%
	27年	1,117	463	472	519	423	北海道 7%
	28年	1,032	549	490	523	649	
	5ヵ年平均	1,096	469	485	451	472	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,000	500	500	500		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
岐阜、愛知、熊本などから入荷する。夏秋産地は8月の曇雨天による病害や花落ちの発生で例年より入荷が少ない見通し。抑制産地も作柄はやや不安定。熊本のハウス栽培では天候の影響で生育が遅れ気味。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。							
ミ ニ ト マ ト	24年	301	937	851	949	1,046	北海道 37%
	25年	376	875	985	941	758	愛知 30%
	26年	411	805	987	793	661	熊本 24%
	27年	404	913	985	910	879	
	28年	362	1,051	1,031	1,007	1,132	
	5ヵ年平均	371	912	966	923	866	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	380	900	1,000	900	800	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、愛知、熊本を中心に入荷する。夏秋産地が終盤となり、中旬から秋冬産地の入荷が始まる。下旬には入荷量も増え、相場は落ち着くと思われる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

9月30日現在

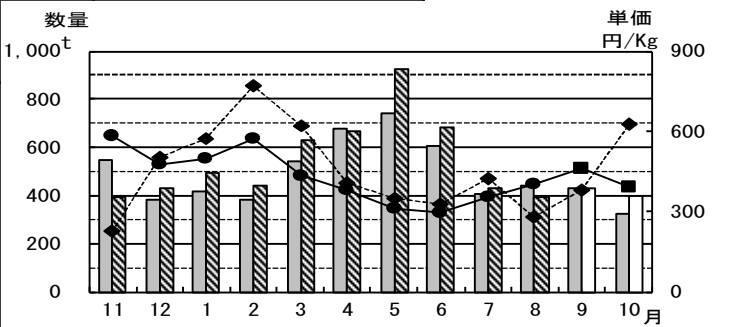
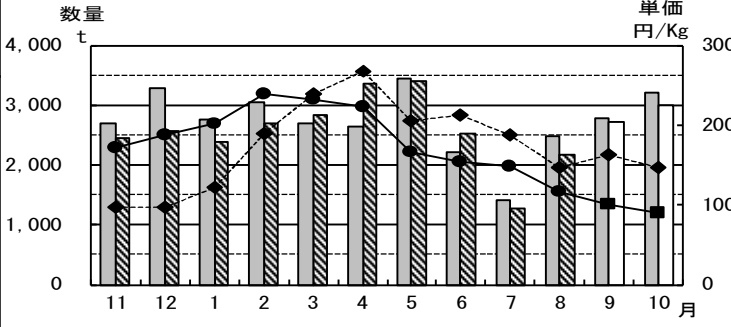
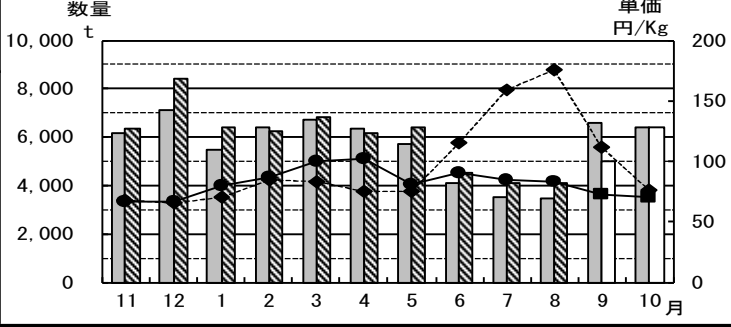
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	24年	3,994	263	280	234	280	高知 35%
	25年	3,138	332	294	267	475	栃木 21%
	26年	3,603	260	221	247	316	群馬 18%
	27年	3,321	359	361	394	330	茨城 8%
	28年	3,405	399	388	391	418	埼玉 3%
	5ヵ年平均	3,492	320	307	304	359	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	3,500	360	360	360		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知、栃木、群馬からの入荷が中心となる。関東各産地で日照不足による花落ち、うどんこ病の発生見られるも大勢への影響は軽微。高知は中旬以降に出荷量が増加し関東産地とスムーズに切り替わる見込み。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ト マ ト	24年	5,968	528	442	576	596	千葉 16%
	25年	6,585	428	532	338	429	福島 16%
	26年	7,109	338	364	315	331	茨城 11%
	27年	6,242	452	495	482	396	熊本 11%
	28年	5,771	545	463	531	659	青森 10%
	5ヵ年平均	6,335	453	457	441	474	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	6,500	400	400	400		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、茨城からの入荷が中心となり東北産地は終盤を迎える。上旬は関東産地がこれまでの日照不足の影響から出荷量を減らす、中旬以降は西南暖地も出揃い量がまとまる。終盤となる東北は小玉傾向。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	24年	1,320	885	774	891	1,013	茨城 22%
	25年	1,748	765	868	812	654	熊本 14%
	26年	1,884	724	930	676	597	北海道 14%
	27年	1,784	873	931	846	840	愛知 11%
	28年	1,531	989	942	951	1,081	千葉 9%
	5ヵ年平均	1,653	840	894	827	818	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,600	850	890	840	820	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、熊本、北海道、愛知からの入荷が中心となる。北海道は花付きが良好であるものの低温により着色が遅れており、小玉傾向が見られる。夏秋産地が終盤となり出荷量は徐々に減少していく。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	24年	447	233	248	255	297	茨城 33%
	25年	435	386	453	398	388	北海道 18%
	26年	409	306	335	346	338	岩手 17%
	27年	498	374	393	385	380	
	28年	325	627	515	664	697	
	5ヵ年平均	423	372	380	407	405	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	400	390	390	390	390	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道、岩手が入荷の中心となる。北海道を含む東北産地は冷え込みにより低調な入荷が続く。茨城は生育順調で潤沢な入荷となる見込み。鹿児島、宮崎などの西南暖地は上中旬から始まる見通し。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ばれいし	24年	2,610	75	78	80	74	北海道 99%
	25年	2,962	95	114	95	89	
	26年	2,984	85	92	89	82	
	27年	2,987	104	111	109	98	
	28年	3,218	146	155	152	141	
	5ヵ年平均	2,952	102	111	110	98	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	3,000	90	95	90	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>ほぼ北海道からの入荷となる。前年は台風や天候不順の影響で、加工向けを含めたばれいし全体の出荷量が減少し、市場入荷分も高騰したが、今年は豊作傾向で順調な入荷となる見通し。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	24年	5,578	70	102	102	104	北海道 100%
	25年	4,866	97	79	79	76	
	26年	6,499	75	80	77	73	
	27年	6,501	73	80	77	73	
	28年	6,449	76	83	76	72	
	5ヵ年平均	5,979	77	84	81	78	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	6,400	70	70	70	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>生食用、加工用ともに北海道からのみの入荷となる。北海道の作柄は良好で、順調な入荷が予想される。極早生はL-M中心だったが、早生は玉肥大が順調でL大-L中心となる見通し。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	24年	2,101	202	172	197	241	茨城 55%
	25年	1,939	356	364	377	331	岩手 25%
	26年	1,977	269	257	262	288	福島 7%
	27年	2,033	333	361	315	319	青森 6%
	28年	1,799	545	438	584	591	高知 4%
	5ヵ年平均	1,970	335	314	341	348	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,900	310	330	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、岩手からの入荷が中心となる。夏の天候不順で出荷量を減らしていた東北各産地の出荷量が回復。前年不作だった茨城も生育順調で平年並となる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値となった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	24年	8,842	86	85	88	86	北海道 99%
	25年	8,747	109	119	107	101	青森 1%
	26年	8,133	92	94	91	91	
	27年	7,564	109	113	109	104	
	28年	7,584	155	155	159	152	
	5ヵ年平均	8,174	109	112	110	106	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	8,300	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。北海道は大玉の発生が少なくないが、平年並のLサイズ中心となる。各産地とも生育は良く、収穫・貯蔵も順調に進んでいる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	24年	11,126	79	85	80	72	北海道 95%
	25年	10,820	107	107	105	108	中国 3%
	26年	11,839	82	85	81	80	兵庫 1%
	27年	10,916	78	81	77	76	
	28年	10,726	85	92	85	80	
	5ヵ年平均	11,085	86	90	85	83	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	11,000	70	70	70	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。台風被害はほとんどなく、作柄良く平年作以上となる。肥大も良くL大中心の大玉傾向。前年以上の出荷量が見込まれる。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月20日現在

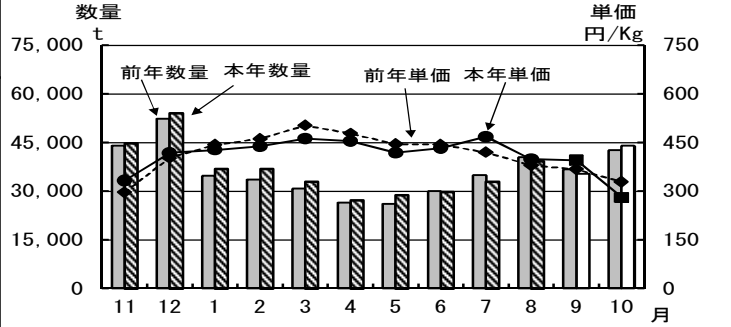
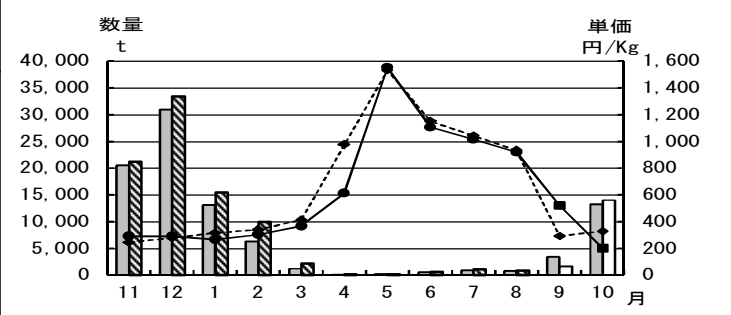
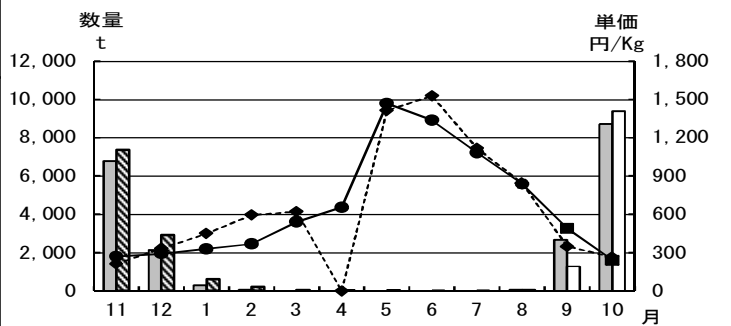
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	24年	13,841	246	295	233	221	和歌山 18%
	25年	12,253	274	301	270	261	長野 17%
	26年	12,729	257	287	263	234	三重 16%
	27年	11,818	279	306	280	264	フィリピン 10%
	28年	10,515	330	348	331	320	
	5カ年平均	12,231	275	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	11,300	290	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野、和歌山、三重、フィリピンなどから入荷する。国内産は全体的に7～10日程度の遅れがみられる。海沿いでは9月の台風被害を受けた産地もあるが、果実全体では大きな入荷量の減少はない見通し。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>						
かん	24年	3,599	161	224	187	148	三重 48%
	25年	3,680	200	215	199	194	熊本 16%
	26年	3,710	178	213	196	145	和歌山 16%
	27年	3,553	189	200	183	189	静岡 13%
	28年	3,360	261	257	256	264	
	5カ年平均	3,581	197	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	3,200	250	—	—	—	
かん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>三重を中心に、熊本、和歌山、静岡などから入荷する。前年に比べると入荷の遅れがみられる。極早生、早生はそれなりの入荷が予想されるが、その後の中生以降の入荷は少なくなる可能性も。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。</p>						
柿	24年	2,334	223	290	216	195	和歌山 70%
	25年	1,918	254	256	249	275	岐阜 10%
	26年	2,171	238	271	240	225	愛知 10%
	27年	2,322	219	253	222	208	奈良 5%
	28年	1,900	263	286	254	268	
	5カ年平均	2,129	238	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	2,300	230	—	—	—	
柿	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>和歌山を中心に、岐阜、愛知などから入荷する。生育は順調だが、前年に比べやや遅れており、果実は小玉傾向がみられる。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

9月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	24年	52,113	234	262	225	219	和歌山 13%
	25年	45,020	270	285	268	259	青森 10%
	26年	48,993	254	267	251	245	熊本 8%
	27年	47,454	282	302	281	265	長野 8%
	28年	42,602	328	352	322	315	愛媛 7%
	5ヵ年平均	47,236	272	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	44,000	280	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、かき、なし、りんご中心に入荷。前年は秋口の天候不良によりぶどうやなしで入荷減、単価高の展開となったが、本年は大きな気象災害も無く、各品目とも前年を上回る入荷が見込まれる。入荷量は前年をやや上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。						
み	24年	15,304	162	181	147	166	熊本 25%
	25年	14,356	192	204	190	186	長崎 23%
	26年	15,121	159	175	159	150	愛媛 22%
	27年	15,265	199	211	196	189	和歌山 13%
	28年	13,228	242	254	239	238	佐賀 12%
	5ヵ年平均	14,655	189	204	185	184	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	14,000	200	210	200	190	
か	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、長崎、愛媛などから極早生中心に入荷する。生育は早かった前年に比べて遅れているものの、各産地とも玉肥大も順調で、前年を上回る出荷となる見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は例年に無く品質良好であった前年を大幅に下回る見込み。						
かし	24年	10,097	209	267	191	189	和歌山 45%
	25年	8,196	253	235	243	279	奈良 28%
	26年	9,230	229	233	227	229	新潟 8%
	27年	10,170	212	235	215	196	愛知 6%
	28年	8,707	265	274	251	272	岐阜 3%
	5ヵ年平均	9,280	232	249	224	230	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	9,400	240	240	240	240	
かし	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	和歌山中心に奈良などから入荷する。前半は「刀根早生」、中旬からは「平核無」中心に入荷する。着果量は平年並からやや多く、豊作基調だが、好天・高温により日焼け果や小玉傾向がみられる産地もある。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高かった前年をかなり下回ると見込み。						

切花・鉢花の10月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 9月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	24年	1,724	47	
		25年	1,566	53	
		26年	1,861	36	
		27年	1,799	45	
		28年	1,628	83	
	5ヶ年平均	1,716	52		
29年見通し	1,700	50			
概要	愛知、三重、長野などから入荷する。高冷地産は終了に向かう。周年産地中心となり、品種も秋系が増えてくる。一般の動きは少なく、業務中心の動きとなる。				
小 ぎ	実績	24年	951	29	
		25年	849	36	
		26年	818	29	
		27年	720	34	
		28年	621	53	
	5ヶ年平均	792	35		
29年見通し	700	35			
概要	愛知、奈良、長野、埼玉などから入荷する。気温が下がり、高冷地産は順次終了する。品種も秋冬物に切り替わっていく。入荷は多くないが、需要も落ち着いているため、相場はもちあい。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	24年	1,188	68	
		25年	1,314	35	
		26年	1,185	36	
		27年	1,262	43	
		28年	1,305	46	
	5ヶ年平均	1,251	45		
29年見通し	1,300	45			
概要	長野、北海道、愛知を中心に入荷する。全体に予定通りの出荷だが8月前半の日照条件が悪く、若干スプレーに影響が出て、秀品率が低下する。スタンダードはブライダル等の引き合いで安定した販売となる。				
か す み	実績	24年	85	136	
		25年	110	112	
		26年	126	92	
		27年	89	151	
		28年	75	165	
	5ヶ年平均	97	126		
29年見通し	85	135			
概要	長野、福島、熊本中心の入荷となる。下旬は高知、和歌山からも入荷する。高冷地産は、9月出荷分が天候のためにやや遅れた出荷となる。近年10月は品不足になっているので、販売には有利となる。業務需要が活発で引き合いは強く、価格もやや強めの動き。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	24年	381	162	
		25年	412	144	
		26年	383	147	
		27年	338	162	
		28年	310	182	
	5ヶ年平均		365	158	
	29年見通し		330	160	
概要	<p>オリエンタルは新潟、北海道、九州、埼玉、高知などから入荷する。高冷地の遅れた分が10月出荷となり、品種によっては荷が多くなる時期がある。鉄砲は主力の高知が少なく、やや不足の入荷となる。LAは彼岸の後で出荷は少ないが、埼玉中心に入荷があり、問題ない。相場は活発な動きが見込め、やや強い販売となる。</p>				
洋らん	実績	24年	561	62	
		25年	1,103	68	
		26年	556	72	
		27年	543	69	
		28年	588	75	
	5ヶ年平均		670	69	
	29年見通し		600	70	
概要	<p>愛知、静岡、鹿児島などの国内物や輸入物が入荷する。コショウランは引き続き、輸入物で安定した量が出てくる見通し。シンビジウムは国内物の出荷が始まる。全体としてはブライダル需要を中心に引き合いがある見込み。</p>				
ばら	実績	24年	1,049	77	
		25年	997	71	
		26年	974	73	
		27年	860	80	
		28年	833	86	
	5ヶ年平均		943	77	
	29年見通し		900	80	
概要	<p>愛知、岐阜、三重、和歌山中心に入荷する。高冷地産から順次暖地産が中心となってくる。週末の日柄もよく、婚礼需要等で堅調な販売が見込まれる。</p>				
枝も	実績	24年	1,668	45	
		25年	1,588	46	
		26年	1,626	45	
		27年	1,531	48	
		28年	1,567	50	
	5ヶ年平均		1,596	47	
	29年見通し		1,580	48	
概要	<p>長野、岐阜を中心に季節感のあるものや、実ものが入荷する。紅葉ものも始まり、にぎやかになるが、需要はやや減り、動きは鈍い。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	24年	25,564	792	
		25年	18,404	817	
		26年	18,287	778	
		27年	16,989	975	
		28年	20,346	769	
	5ヶ年平均		19,918	820	
	29年見通し		20,300	768	
概要	<p>入荷量は前年並か。愛知が中心となり、サイズは7号から8号がメインとなる見込み。昨年10月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知(46.7%)、2位鹿児島(26.5%)、3位沖縄(7.7%)となっている。</p>				
シャコバサボテン	実績	24年	61,116	387	
		25年	56,852	378	
		26年	42,802	370	
		27年	47,667	372	
		28年	33,336	420	
	5ヶ年平均		48,355	383	
	29年見通し		33,000	418	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。関東、愛知より入荷があるが生産量は減少する見込み。そのため注文が集中する生産者も出て、競売分の出荷減も予想される。価格は前年と大きく変わらないと思われるが、注文の数量が若干でも増えれば底上げも期待される。昨年10月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知(62.6%)、2位埼玉(27.9%)、3位茨城(3.4%)となっている。</p>				
シクラメン	実績	24年	520,300	177	
		25年	635,015	181	
		26年	603,249	181	
		27年	641,497	184	
		28年	672,626	184	
	5ヶ年平均		614,537	182	
	29年見通し		673,000	186	
概要	<p>入荷量は前年よりやや増加か。出荷の大半はガーデンシクラメンが占める。反面4号以上のサイズは前年同様減少傾向にある。天候次第ではあるが、ガーデンシクラメンは初旬より引き合いが強くなると予想。一方で4号以上は前年並の相場で推移する見込み。昨年10月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位長野(37.6%)、2位愛知(29.2%)、3位北海道(8.8%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シンビジュウム	実績	24年	5,020	1,983	
		25年	11,167	2,090	
		26年	9,021	2,040	
		27年	9,082	1,937	
		28年	11,112	1,549	
	5ヶ年平均		9,080	1,905	
	29年見通し		11,000	1,545	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。前年同様に早生品種の作付けが減っている点と、年々早いタイミングで売れなくなっており、遅い作りに変わりつつあるのが現状である。今年の株の出来は前年より良いので、花芽が揃ってくるかどうかポイントになる。まだ暑いので水はしっかりあげてほしい。昨年10月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位愛知（72.9%）、2位高知（5.2%）、3位徳島（4.7%）となっている。</p>				
カランコエ	実績	24年	53,440	194	
		25年	50,183	183	
		26年	46,552	183	
		27年	51,897	176	
		28年	43,730	202	
	5ヶ年平均		49,160	187	
	29年見通し		43,700	201	
概要	<p>入荷量は前年並か。前年同様に5号～6号の混色植えが人気が集まりそうである。4号は激戦が予測されるのでより一層の花咲き前を厳選しての出荷をお願いしたい。また3号以下の可愛い商品のご出荷も要望したい。昨年10月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位埼玉（48.1%）、2位岐阜（34.9%）、3位茨城（7.5%）となっている。</p>				
パンジー	実績	24年	775,617	44	
		25年	868,159	44	
		26年	788,490	45	
		27年	712,658	52	
		28年	613,807	52	
	5ヶ年平均		751,746	47	
	29年見通し		620,000	52	
概要	<p>入荷量は前年より増加か。前年は暑さや台風などから10月分の作付けに影響が出た。今年は気候が良く、夜温も下がってきていることから、初期生育は良好。出荷も順調に始まる見込み。昨年10月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位愛知（35.7%）、2位奈良（16.3%）、3位福井（10.5%）となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.532
平成29年10月発行
農林水産部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434